

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名: 小林 和日
所属: 地域保健学域 教育福祉学類
学年: 4年

留学先: ドイツ ヴッパタール大学

留学期間: 2019/10/01~2020/7/31

記入日: 2020/8/16

留学レポート Study Abroad Report

はじめに:

留学先はドイツのヴッパタール大学という比較的ドイツ西部、オランダ寄りに位置する場所です。留学期間は2019年10月から2020年7月までの10カ月間、2セメスターでした。

私が4年後期からドイツ留学を決意したのは、ドイツ語の持つ美しい響きに魅かされただけでなく、2018年の秋に参加した教育福祉学類と上智大学合同バルト海スタディーツアー*にて、世界規模の環境問題を目の当たりにした経験が原点となっています。海洋汚染の一因となるマイクロプラスチックに関するワークショップ経験から芽生えた、知識を得たからには足元からできることをしたいという意志と海外の学生と肩を並べて勉強したいという気持ちが、環境先進国と言われるドイツでの交換留学を後押ししました。具体的には、プラスチック廃棄を最小限にした企業活動やライフスタイル、環境意識の高い市民や社会の実態や日本との差異、その源泉を現地で学ぶことを目的としていました。いつも計画通りになるとは限らず、しかし、10カ月の現地生活を通して新たに湧き上がってきた関心と、果たせなかった目的を今度は複合的に研究していく将来性を掴むことができました。

*ユネスコ主催のGlobal Citizenship Education(GCE)に関する国際会議のひとつ、バルト海プロジェクト。Global Citizen 2030を目指すもの。



哲学への誘い: ハイデルベルク



圧倒的な存在感: ヴュルツブルクのレジデンス



王道ヴァイツェンビール

ヴッパタール大学(Wuppertal Universität)での授業:

交換留学生として、私の関心に基づく授業を自由に選択することができました。ヴッパタール大学には交換留学生やエラスムス院生*、ドイツの大学を目指す多国出身の学生向けにドイツ語クラスが充実しています。私の計画では、前期(2019.10.~2020.02.)の間ドイツ語クラスで語学力を高め、後期(2020.04~2020.07.)に専門分野やインターンシップに集中する予定でした。ドイツ語クラスは語学レベルに応じていくつかのクラスに分けられ、朝8:00~12:00(曜日によっては14:30まで)、年齢も国籍も人種も様々な学び仲間とともに社会的、文化的、学問的なテーマを扱う授業を受けることができたのは、語学のみならず人間的に成長できる環境でもありました。お陰様で、約5カ月でドイツ語力はぐんと伸び、最終試験ではドイツの大学院に入学する語学資格であるDSHというレベルをクリアすることができました。その間も、院生向けに開講されていたイノベーションの授業や英語の授業を並行して受講していました。それぞれ、週に一度2~3時間程でした。そこで初めてドイツの院の授業を体験し、およそ30人の学生と教授が双方向に知を深めていく一端を感じることができ、刺激的な経験となりました。

2月末からコロナ渦がドイツでも広がり始め、後期の大学の授業は全面的にオンラインに移行しました。検討していた Sustainable management/環境経営のフィールドワークは残念ながら未開講となり、予定していた Bio-markt/オーガニック(有機)スーパー、あるいは Unverpackt/パッケージフリーショップでのインターンシップは安全性から断念せざるを得なくなりましたが、Strategic Service Management/サービスマネジメントと Business English B2/ビジネス英語はオンラインで視聴、参加が可能でした。それぞれ週に一回2時間程度で、前者は事前に録画された授業を視聴し、毎週オンラインチャットで質問事項等をオープンに話し合える場や月末に Zoom での振り返りが設定されていました。後者は Zoom をメインとし、小グループでのディスカッションやオンライン課題提出、さらには最終試験もオンライン上で行われました。教師も学生も予期せぬ初めての状況の中で、後期はお互いに手探りの試みだったように感じます。さらに、府大との卒論 Zoom ゼミも4月末から始まりました。長らく続いたロックダウン下では直接人と話す機会が制限され、挫けそうな心に届くエールのようなものが、まさにこれらのオンライン授業でした。少し厳しい社会状況であったのは確かですが、憧れてきた留学先ドイツで最後まで生活の続けながら学びにアクセスできる環境にいられたことに、今でも心から感謝しています。

*世界中から応募可能なエラスムス制度を利用した院の留学生。



この先にあるのが大学



「そのまま売る」有機スーパーの果物野菜売り場



リサイクル促進: Pfand

留学生活:

私は10カ月間、ヴッパータール大学から徒歩5分圏内の学生寮に住んでいました。寮自体はとても規模が大きく、留学生のみならずドイツ人学生も多く、一人部屋から二人で共用、複数で住むタイプ...と寮部屋の形態も様々でした。私は偶然にも二人共用部屋を当てられており、10月から1月末までは府大の院生とルームシェアをしていましたが、2月からはコロナの影響もありルームメイトは来ず、実質的には一人暮らしをしていました。寮の部屋には既に生活に必要な最低限のものが備わっていたので、追加で何か買い揃える必要があったのは電子レンジやフライパンくらいでした。十分な広さの一人部屋にソファベッドやクローゼット、棚、勉強机等があり、プライベート空間は守られていたように感じます。またキッチン/シャワー/トイレ/冷蔵庫(これらは基本2人で共有)や食器類も有り、自炊をしながら留学生活を送るのに不便は感じませんでした。寮近郊には質の異なる6つのスーパーが点在し、場合に応じて食品を吟味しながら買い物をすることもできます。ちなみに、ヴッパータールに住んでいて良かったと思えることのひとつは、緑が豊かだということです。ドイツで「緑の街」とも言われるこの地では、静かに佇む森や鳥の囀り、広大な原っぱ、おぼろげにも感じられる季節の移り変わりというように、生き生きとした自然を自分の一部として自覚しながら生活を送ることが出来ます。ドイツという異郷の地は、私にとってはある種、非日常の圏内です。毎日が新鮮であることに違いはありませんが、精神的に弛緩する経験や人知れず恐れを抱く場面も増えてきます。そんな時に大きな森に駆け込み深く呼吸をする時、自分の内に広がる何でもできるという自信や可能性に気が付くのです。とりわけ4ヶ月ほどの自粛期間中は、自然環境に励まされることも多かったと振り返ります。

留学というものは、自分ひとりでは始めることも経験することも感謝することもできません。自分の意志を出発点に、家族の精神的かつ金銭的バックアップがあり、大学職員や教授のサポートに恵まれることでようやく留学をスタートさせることができます。現地での生活を始めるに際してまだ右も左も状況下では、友達の助けはとりわけ大きな意味を持ちます。携帯のドイツ版SIMへの移行や銀行口座開設、住民登録、学生ビザの発行手続き等...数えきれないほどの手助けを経て留学生活を軌道に乗せることができました。生活に慣れてきても、日々新しい「知らない」に出あうたびに他者の意見を求め、共に解決してきました。もとより一人で過ごす時間も比較的好む私ですが、予想もしなかったコロナ下のロックダウンでは気弱になり感情をコントロールすることが難しい場面も多々ありました。そんな時に遠くにいる親に正直な感情を吐露したり、同じような境遇の友達と近くを散歩したりすることで、もう一度「気」を取り戻していくことができました。こうした大切な人の存在があって、私のドイツ留学は本当に意味あるものになったし、これほどの助けに恵まれた今、相手のニーズに勘付くアンテナをも鍛えられたと思います。留学は語学の習得や専門性を学ぶことだけではありません。何よりも、最も近くて意外に気がつきにくい「自分を知る」ことができ、どう生きたいのかを真に問うことができる機会でもあります。決して容易い10カ月ではありませんでした。この交換留学は私の将来への起点になりました。

お世話になった方々、助けてくれた方々に今一度心から感謝の気持ちを伝えたいです。本当にありがとうございました。



寮の外観



寮の部屋



キッチン



高めあえる韓国の心友



コロナ下でも助けてくれたドイツの大親友とその家族



哲学を学ぶフランスと台湾の友達

海外留学を考えている学生のみなさんへ:

今、少しでも海外で学びたいという思いを抱いているのであれば、そして環境が許されるのであれば、自信をもって留学へと踏み切ってみてください。私の場合は教授との縁もあり、大学 1 年の夏からニュージーランドへ 2 週間スタディツアー、2 年の夏にはもう一度ニュージーランドへ 1 カ月の語学留学を、3 年の夏にはエストニア・ドイツへ 2 週間スタディツアー...と短期間ずつではあれ海外経験を積む機会に巡り合ってきました。4 年になって、就職活動に時間を費やす以上にまだやるべきことがあると思います、長期交換留学を真剣に考え始めていました。人それぞれに目的や意志、決断のタイミングがあると思います。確かに留学は一時的な感情や期待だけでは決められるものではありませんが、異なる土地で異なる言語で異なる人たちと交じり合うことは、予想以上に人を成長させ、生そのものに変化を与えます。留学費用に関しては、留学をより身近にしてくれる奨学金もいくつかあるので、国際交流課の方に相談したり留学経験者に聞いてみたりするのもいいかもしれません。ここまで読んでくださったあなたの決断が実を結ぶことを強く願っています。

